

2025 年度

学校名 南アルプス市立白根源小学校

対象学年 5 年

① 学習指導案

プログラム	No.9「思い出いっぱいわたしたちのみち」
単元名 (全6時間)	わたしたちの思い出
学習のねらい	風景と心のつながりに気づき、様々な思い出とともに、心の豊かさをもたらしてくれる風景を大切にしていこうという気持ちを育てる。
学習内容	1 通学で毎日通っている道で、思い出に残ることはどんなことがあったのか。 2 思い出に残る場所を探しながら、撮影する。 3 写真それぞれに思い出のタイトル、ストーリー仕立てにする。 4 ストーリーを劇にして、学習発表会で発表する。
参考資料 準備品 実施場所等	カメラ・chromebook

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	登下校中の印象的な風景や場所の発表と書き出し	児童・生徒が自由に発言できるように促し、「身近なまちには様々な風景がある」という気づきを確実に引き出す。	身近な風景に対する関心を持ち、多様性に気づいたか。(関心・意欲・態度)
2・3	写真撮影と観察	保護者の協力を得て、安全かつ効果的な撮影活動を支援する。写真の構図や被写体(景観の構成要素)について意識させるための声かけやヒントを与える。	風景を深く観察し、景観の構成要素を意識して「記録する」ことができたか。(技能・知識)
4・5	写真を使った「通学路の物語」の創作	写真と記憶を結びつける作業を促し、「まちの風景は人々の生活や感情と密接に関わっている」という核心的な学びに導く。創作過程で生じた疑問を大切にし、自ら考える力を育成するよう促す。	写真と「思い出・感情」を結びつけ、「風景と生活の結びつき」を理解した物語を論理的に創作できたか。自ら疑問を見つける思考力が育っているか。(思考力・判断力・表現力 / 知識・理解)



6	創作した物語の劇による発表	「自分の感じたことや考えたことを他者に伝える」ことの重要性を指導する。発表後の振り返りを通じて、「同じまちでも、人によって見える景色や感じることは違う」という多様性の理解を深めるよう促す。	自分の考えや感じたことを他者に効果的に伝える表現力があるか。他の発表を通じて多様性を理解しようとする態度が見られるか。 (思考力・判断力・表現力 / 関心・意欲・態度)
---	---------------	--	---


<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名 南アルプス市立白根源小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	教室	登下校時の風景や場所について発表・共有する活動を通して、身近な地域に存在する多様な風景への気づきを促す。児童・生徒が自由に発言できる場を設け、それぞれの視点による発見を共有することで、地域社会への関心と意欲を高める。	まず、登下校中の「いつもの風景」を思い出し、印象に残っている場所や光景をスプレッドシートに書き出した。その後、グループや全体で発表を行う時間を設け、各自が発見した「お気に入り」や「気になる場所」を共有した。	登下校路という児童の生活に密接した経験や思い出を回想・共有する活動を展開した。自身の記憶を辿るプロセスを重視したことで、通常の授業以上に活発な対話が促された。話し合いの中では「私たちの地区にはたくさんのお思い出がある」といった発言が自発的に見られ、日常的な風景の中に自身の歩みや幸福感を見出す姿が確認できた。この活動を通じ、身近な地域社会に対する深い愛着と、日々の生活を肯定的に捉え直す契機となった。
2・3	各地区	保護者の協力のもと、安全に配慮した環境で写真撮影および観察活動を実施する。	保護者の協力のもと、安全に配慮し、思い出のある場所での写真撮影を行った。	慣れ親しんだ通学路を、対話を通じて歩むことで、5年間の記憶を想起する機会となった。改めて風景の美しさを再認識するとともに、観察や撮影活動を

				<p>通して、これまで見落としていた新たな景観の魅力に気づく様子が見られた。本活動は、地域の価値を再発見し、自身の思い出を振り返る有意義な体験となった。</p>
4・5	教室	<p>撮影した写真と自らの記憶を関連付ける作業を通じ、地域の風景が人々の生活や感情と密接に関わっていることを深く理解させる。</p>	<p>学習発表会に向け、撮影写真と個人の記憶を関連付ける創作活動を展開した。源地区の魅力をもとに発信するため、「地域の人の温かさ」「水の豊かさ」「景観の魅力」「自然の豊かさ」の4視点から劇を構成した。聴衆の理解を深める視点に立ち、各テーマに応じた台詞を考案することで、地域の価値を再構築する学習に取り組んだ。</p> 	<p>児童は、源地区の魅力をもとに伝える表現方法について、多角的な議論を展開した。学習の過程では、地域の現状を再発見するだけでなく、「将来にわたりこの良さを継承したい」といった未来への展望を持つ姿も確認された。現在の価値と将来の責任を統合的に捉えながら、主体的に探究を深める様子が見受けられた。</p>
6	体育館	<p>創作した物語を学習発表会で地域の人や保護者、他学年発表した。</p>	<p>前時に考案した台詞をもとに劇の発表を行った。4つの視点から整理した源地区の魅力を、聞き手に伝わるような表情や声の大きさを</p>	<p>児童は練習の成果を存分に発揮し、源地区の魅力を自分たちなりの言葉と表現で伝えた。発表後には「やってよかった」「伝わってよかった」という声が</p>

			<p>工夫して表現した。発表を通して地域の良さを客観的に捉え直すとともに、友人の表現に触れることで新たな魅力にも気づくことができた。地域の価値を再確認し、発信への意欲を高める活動となった。</p>	<p>上がり、大きな達成感を味わう様子が見られた。発信側としての手応えを感じ、地域の良さを再認識する貴重な機会となった。</p>
				

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>児童の生活に密着した通学路を題材とし、自身の記憶を辿るプロセスを重視することで、地域社会への関心と意欲を高める工夫を凝らした。具体的には、タブレット端末を活用して思い出の場所を撮影・記録し、それらを「地域の人の温かさ」「水の豊かさ」「景観の魅力」「自然の豊かさ」という4つの視点から劇として構成した。単なる風景の観察に留めず、個人の感情や生活と結びつけた物語を創作させることで、地域の価値を多角的に捉え直す工夫を行った。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>写真撮影活動においては、各地区での安全かつ効果的な撮影を実現するため、保護者の協力を得て体制を整える必要があった。また、児童が撮影した写真と個人の抽象的な記憶を論理的に結びつけ、劇中での台詞として言語化させる創作過程においても、きめ細やかな助言と指導が求められた。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>自身の記憶を辿る活動を通じ、通常の授業以上に活発な対話が促され、「地域にはたくさ</p>

んの思い出がある」といった自発的な発言が見られた。学習発表会での劇の発表後には、「やってよかった」「(思いが)伝わってよかった」という大きな達成感を味わう声が上がりに、地域の魅力を客観的に捉え直す契機となった。また、地域の良さを再発見するだけでなく、「将来にわたりこの良さを継承したい」という未来への展望を持つ姿も確認された。

#### (4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

担当教諭は、自ら設定した課題に対して児童が主体的に取り組む姿に強い感銘を受けた。本単元を通じて、児童が自律的に考え行動できる可能性を再認識した。この経験を受け、担当教諭の指導方針は大きく変化し、その後の授業設計においても、児童自身に思考・探究させる時間を十分に確保する形式へと転換が図られている。児童の潜在能力を引き出すための「待つ指導」や、児童の問いを軸とした授業構成の重要性を理解した。

#### (5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

児童が自身の思考過程で生じた疑問を大切に、自ら考える力をさらに育成することが課題である。指導に際しては、同じ風景でも人によって見え方や感じ方が異なるという「多様性」の理解を、振り返りを通じてより深める必要がある。今後は、地域の価値を再構築する過程で得られた気づきを、一時的な達成感に終わらせず、持続的な地域貢献や郷土愛へと昇華させるための指導内容との関連付けに留意していく。